民主香川
定価　月 100円
発行所
民主香川社
高松市藤塚町
３丁目13－14
☎(087)834-7311

今こそ政治を変えるとき　白川氏
財源示す消費税減税こそ

日本共産党の白川よう子参院比例候補は２日、高松市の繁華街で演説し、消費税５％減税など物価高から暮らしを守る党の緊急提案を紹介し、「暮らし、命を守るためにもアメリカや大企業言いなりの政治から脱却し、政治を大本から変える共産党を大きくしてください」と呼びかけました。

昼の商店街の２カ所で支部や地方議員、後援会の人たちと宣伝。通りがかりの人から声援もありました。

白川氏は消費税に一貫して反対してきたのが共産党だとし、「国民のみなさんと力をあわせて消費税導入にも、導入後もずっと消費税をなくそうと提案し、たたかい続けてきた政党です。だからこそ、今すぐ５％に、そして、なくしていこうと提案ができる」と強調しました。与野党から消費税減税を求める声が上がるなか、「今こそ国民の声を大きくして、国民の声でこそ政治を動かしていくときではないか」と呼びかけ、大もうけをしている大企業や大金持ちを優遇する不公平な税制をただせば財源はつくれると力説しました。

憲法記念日にリレートーク
平和憲法を生かす香川県民の会

日本共産党県委員会や立憲民主党県連、社会民主党県連合、市民団体などの１６３団体でつくる平和憲法を生かす香川県民の会は高松市で３日、ジャーナリストの金平茂紀氏を招いた記念講演会と総会を開き、約４００人が参加しました。続いてピースウォークをし、高松三越前で市民と野党の代表らがリレートークしました。

リレートークで杉村智子代表委員は「他国を攻撃するミサイルを持って平和は語れません。憲法に裏打ちされた平和を守り続ける」とあいさつしました。

香川憲法会議の十河浩二事務局長は「武力によらない平和を掲げてきた憲法が戦後80年、日本を戦争させないできた。人類の進むべき道を指し示してきた憲法を守り、戦争への道を食い止める」と語りました。

日本共産党の中谷浩一県委員長は「戦争やその準備でなく、外交が大事。『平和を守れ。軍拡を許さない』との声を上げていこう」と呼びかけました。

護憲香川県民連合の豊田浩共同代表、立憲民主党の山西朋子・高松市議、社民党の溝渕裕子・三木町議、みどり・香川の太田安由美・高松市議が訴えました。

太鼓台

英国旅行では、風景や街並みの美しさに驚いた。古い建物の資産価値が高く、外観を保存して住み続け、街ごとに色が統一されていた。丘陵地には、牛や羊が放牧され、広大な農地が広がり、緑があふれていた。英国では「食料は我が国の資源から」の政策以降、補助金の助成などで農業は保護され、食糧自給率が１９６５年の45％から、現在は約70％に上昇した。

労働者の権利保障にも驚嘆した。旅の途中で、添乗員さんが「明日から運転手さんもバスも替わります、労働時間違反は会社に多額の罰金がかかるので」と言った。また、ある日は15時台に到着後、街を散策したが、パブ以外は閉店し、ドアには15時や16時にクローズと貼り紙。多くの観光客に溢れていた郊外の街で英国人は利益や便利さよりも働く人の生活を重視し、早い時間に労働から解放されていた。

日本人も労働時間の短縮で自由な時間を増やし、学び、趣味の時間を持ち、家族や友人とゆっくりと過ごせるようにすれば、幸福度が上がることと間違いなし。（こ）

第71回原水爆禁止四国大会ｉｎかがわ

★６月７日(土)13時半～17時・８日(日)９時半～12時
★参加費：２００円・交流会６０００円
★７日13時半～17時：会場　カネミツ・キャピタル　ホテル
　15時～記念講演：嶋田侑飛氏　日本原水協担当常任理事
　17時終了　　18時夕食交流会
　８日９時半～12時：会場　高松ヨット競技場会議室
★連絡先：原水爆禁止香川県協議会　高松市瀬戸内町43－23
　TEL090－4971－4009

クレマチス

民主香川ご購読のお願い
月３回発行
月額100円

いつも民主香川をお読みいただきありがとうございます。民主香川の継続的な発行のため、無料で宣伝紙をお配りしている方に購読の契約をお願いしています。しんぶんの請求書などに民主香川の１００円の請求がない方は、お近くの日本共産党地区委員会までご連絡ください。

イングリッシュローズ・スイートジュリエット

郷土史辞典「笠居郷探訪」（一部抜粋）㉗

ムキムキ（向き向き）

著者　立山 信浩

香西の家並みと通りが一定方向に統一されていないことの表現。香西資村以後の香西氏歴代城主が、香西を海からの外的に備える海城都市として構築して佐料（さりょう）本城や宇佐神社（藤尾城）に侵攻し難くしたために、独特の歴史的都市形態すなわちムキムキの街並みが生まれたという。

海賊（水軍）の侵攻に備えて、港から宇佐神社（藤尾城）に至る一帯は見通しの効きにくい食い違いや湾曲のある通り、袋小路、入り組んだ掘り割り、抜け道などで複雑に構成された。また長い塀を巡らせた神社仏閣が多いことも戦略的な意味を持っていた。その結果、家並みはあっち向きこっち向き。今でも、足並みのそろわないことを「香西の町でムキムキ」と冷やかす。

ムキムキの町並みは、港から藤尾城に迫る地域に特に入念に作られたために、中塚や釣の一帯には今もその一部が残っている。

※　高松藩主松平頼重が、香西寺再建と国清寺創建に際して、それぞれの寺の山門前からムキムキの町並みを貫く直線路を造らせ、門前町のたたずまいを造り上げたときも、港に近い地域のムキムキの家並みは残された。

※　自動車交通に移った昭和期以後は、県道や町道の縦貫、拡幅によりムキムキの町並みは次第に姿を消している。

「子供の頃は檀紙に住んどった。夏が来ると、小学校の友達何人かと自転車に乗って、よう香西の芝山に海水浴に来た。親は、芝山へ行く道を教えてくれるときに、「ええな、帰るときも同じ道を帰るんゾ。香西のムキムキで寄り道しよったら、出て来れんようになるんゾ」と念を押すんやが、そう言われると、つい寄り道したくなる。帰り道で適当に町の角を曲がっていくうちに、さっき通った角にまた出てきたりして、そのうちワケが分らんようになった。香西の町がムキムキというのはホンマだった。香西のムキムキはナメたらイカん。」

「向き向きの町並み護った知恵の砦」
（ふるさとかるた）

「香西の町はむきむき遍路行く」（歴史かるた）

「ゴザレ香西ジャンジャンとゴザレ町のむきむき見にゴザレ」
（「香西囃子」昭和35年
久保井信夫作詞）